

令和5年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立山部小学校 教諭 落合 亮太

- 1 派遣期日
 - (1) 全国へき地教育研究連盟 I C T 研修会（オンライン）
・令和5年6月2日(金)、7月4日(火)、8月22日(火)
 - (2) 第20回関東甲信越へき地教育研究大会茨城大会
・令和5年11月9日(木)、10日(金)
 - (3) 第72回全国へき地教育研究大会兵庫大会（オンライン）
・令和5年10月13日(金)
- 2 派遣先
 - (1) 美瑛町立美沢小学校 〒071-0236 北海道上川郡美瑛町美沢中央
 - (2) 太子町立生瀬小学校 〒319-3511 茨城県久慈郡太子町高柴1974
 - (3) 三田市立母子小学校 〒669-1501 兵庫県三田市母子721
- 3 研修内容
 - (1) 学習支援ソフトの基本と応用、カメラや動画の撮影と修正加工、共同編集機能・付箋紙機能等
 - (2) 公開授業・研究協議会への参加
・太子町立生瀬小学校【総合的な学習の時間（太子学）】
 - (3) 公開授業のオンライン視聴
・三田市立母子小学校【3・4年複式、5・6年複式算数科】
- 4 感想
 - (1) ・写真を保存して画面共有した上で、スカイメニュー等で児童自身に写真に直接書き込みをさせることで、従来ワークシートに観察・スケッチしたもので考察していた学習活動が円滑に進められることが分かった。
・2画面提示は比較・検討のために利用するだけでなく、変化に気付かせることでも活用が可能だと知った。
・児童用端末でのカメラを撮る際に、何をどのように撮ると効果的なのかを考えて、機能を活かして撮影することの重要性を学んだ。
・「いつでも」「どこでも」「だれとでも」という視点で、共同編集機能や付箋機能を使うことで、多様な児童の実態に合わせた学びができるのだと感じた。例えば、不登校児童がいる学級において、共同編集機能を活用する学習をオンラインで行うことができれば、学習に参加することができるかもしれない。
・共同編集機能において、同時入力することで児童同士がどのような意見や感想を記入しているのか見合うことができるため、不安なく学習を進めることができそうだと感じた。
・学習場面における振り返り活動において、共同編集や付箋機能を使って、児童同士の発見や気付きを共有することで、次時の学習課題に繋げることができそうだと考えた。
・共同機能での新聞づくりや学級掲示物づくりにおいて、紙面だと反対側にいる児童が書きづらいのに対して、この機能であれば円滑に作業ができるという利点があり、ぜひ活用してみたいと考えた。
・Googleで「ジャムボード」と検索して共有をかけるだけで付箋機能が使えするため、どの教科においても、児童にたくさん意見を出させて、グルーピングして思考の整理ができることが分かった。まずは、総合的な学習の時間で、課題探究をする際に活用したい。

- ・ジャムボードにあらかじめ作成しておいた板書構成のテンプレートを貼り付けて、授業を進めることで、学習の流れを統一できると同時に、教師の指示時間の減少や個別時間の確保につながる点が良い。
 - ・遠隔合同授業に関して、日立市ではTEAMSでグループ作成して他校の児童と交流する機会をつくることができると思うので、敷居を高くせずに気軽につながれる環境づくりをする必要があると考えた。
 - ・目指す児童の姿から、どのような場面でICTを活用できるかを、本研修で紹介のあったツールや指導方法を参考にしながら考えることで、ただICTを使うことを目的とせず、各教科の課題にあった効果的なICT活用ができるようになることを改めて実感した。本校の課題研究研修の際に教職員間で情報共有して活かしていく。
- (2)・1、2年生の生活科「あきのむしにくわしくなろう」では、筑波大学から虫の研究をしている先生を講師として招いて授業をしていた。専門知識のある地域人材の積極的な活動は、学校の規模に関係なく有効であると考えた。
- ・3、4年生では、大子町のよさについて留学生（15名）に紹介していた。交流の場を設けることで、児童の人とのつながりを広げることができるなど改めて感じた。
 - ・5、6年生では、緑の少年団の活動について、聴覚特別支援学校の方々に紹介していた。また、ふれあい森の音楽会では、台湾とオンラインでつながり音楽を楽しんでいた。ICTを効果的に活用することで周辺地域にとどまることなく、世界にまで目を向けて交流できている点が参考になった。
 - ・授業や学校行事において、外部とのつながりをもって情報を発信して交流していた。多方面とのつながりをもつことが大変そうに見えたが、市や教育委員会の協力のもとで実施できることが分かった。
 - ・へき地教育で、孤立せずに周辺地域や世界とつながっていくために、タブレットを積極的に活用しているところが、今後の未来を見据えていて素晴らしいと思った。
 - ・本校の場合、2年後の統合に向けて、統合相手校との、交流の幅を広げる取組が考えられる。
- (3)・前日の家庭学習で予習をして、授業に参加している様子だった。児童主体で授業が進んでいた。
- ・本校では学習リーダーが、求めることや分かっていることをその他の児童に聞いているが、その他の児童がリーダー（ガイド役）に質問するスタイルで新鮮だった。
 - ・問いの提示はしていたが、まとめは全体でやらずに練習問題で力試しをしていた。ほとんど子どもたちだけで授業を進めていてすばらしかった。手の止まっている児童はいなかった。
 - ・振り返りの発言、ノートに書かずに、その日できたところや難しかったところ、重要なポイント、次回生かしたいことをすぐに言えていた。そのための教師のまとめが大切だと感じた。
 - ・5年「台形やひし形の面積」では、自分で補助線を引いて考えられていた。児童1人に対して児童役の教員が対話をしながらまとめに導き、児童自身の言葉でまとめや振り返りを書くことができていた。
 - ・6年「円の面積」（4人）では、電子教科書を用いて比較・検討する姿がみられた。一人一人が理由も含めてよく書けていた。
 - ・教科書の考え方をもとにして、自分の考えをもって活動に取り組む姿が印象的だった。